

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C



事業所名: ニチケアセンターだいどう

作成者: 永井 康正

作成日: 2024年 1月 29日 運営推進会議における評価実施日: 2024年 1月 29日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

| No. | タイトル | 評価項目 | 事業所 自己評価 | 記述 | 運営推進会 議 における 外部評価 | 記述 |
|--------------------------|------------------|---|-------------|---|----------------------------|---|
| I. 理念・安心と安全に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | 理念の共有と実践 | 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | B | 基本的人権の尊重、健全育成・援護の実施、社会的自立の助長、地域福祉への貢献。「第二の我が家」をホームの理念にあげている。 | | |
| 2 | 事業所と地域とのつきあい | 事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | B | 自治会に加入し、地域のイベント、祭りなどに参加して頂いたり参加している。ご利用者も地域に出かけあいさつなど交わすことも多くなり事業所を認識してもらっている。 | | |
| 3 | 運営推進会議を活かした取り組み | 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | A | 地域の方からの介護の相談、希望者に対して認知症の介護方法・施設選択の助言等を行う。 | | |
| 4 | 市町村との連携 | 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | B | 事業所の地域での役割、地域からの意見を協議している。また、委員の方の意見をもとに、よりよい事業所運営ができるように努めたり、地域の情報を教えて頂きご利用者に還元したりしている。 | | |
| 5 | 身体拘束をしないケアの実践 | 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | A | 身体拘束委員会を実施し身体拘束について学ぶ機会があり、チームで不適切ケアがあれば、言い合えるよう掛けている。また、スタッフと個別面談を随時もうけケアの相談や悩み事など聞き取りなども行う。 | A | 居住系では毎月身体拘束委員会をもち、職員研修や障がい者福祉の勉強会も取り入れ、運営推進会議も報告しています。 |
| 6 | 虐待の防止の徹底 | 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | A | 職員がいつでも閲覧できるよう、各フロアに関係資料を配布している。また、勉強会の定期テーマとして組み込み、新職員にとっては学習・在職員にとっては復習ができるようプログラムしている。 | B | 年回りの研修、障がい者福祉の勉強会も取り入れ、職員研修や障がい者福祉の勉強会も取り入れ、運営推進会議も報告しています。 |
| 7 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 | 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | A | 各種公的機関等から資料を収集して学習の機会を設け、必要に応じてご家族への情報提供を行っている。 | | |
| 8 | 契約に関する説明と納得 | 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | A | 十分な説明と話し合いを実施し、契約後も不安・疑問点には速やかに対応を努めている。 | | |

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンターだいどう

作成者: 永井 康正

作成日: 2024年 1月 29日 運営推進会議における評価実施日: 2024年 1月 29日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

| No. | タイトル | 評価項目 | 事業所 自己評価 | 記述 | 運営推進会議 における 外部評価 | 記述 |
|-----|--------------------|---|-------------|--|------------------------|---|
| 9 | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 | 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | B | 入居問い合わせの段階から本人、ご家族にケアの方針や暮らしの形を説明している。随時疑問点がないかは確認している。 | B | 家族の意見反映は定期的に行っているが、意見を伝えるための仕組みを設けていない。運営推進会議の報告は定期的に行っている。 |
| 10 | 運営に関する職員意見の反映 | 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | B | ご家族からの要望や相談があれば、直ぐに内容をお聞きし検討、運営者への報告し解決できるよう努めている。 | | |
| 11 | 就業環境の整備 | 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | A | 事業所内では、定期会議・日々の業務の中で管理者に素直に意見を言うように働きかけている。ため、法人に対しても意見を反映させられるように、管理者を通じて運営に対する意見を伝えている。 | B | 職員の声を取り入れるための職場環境の整備は、定期的に行っている。職員の意見は定期的に反映している。 |
| 12 | 職員を育てる取り組み | 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | B | 職員が学習したいテーマを出し合い、それに沿った内容で勉強会を開催すること(コロナ感染予防対策為、資料配布し、分からないところは管理者・責任者が指導している)質問ができる環境づくりに努めている。 | B | 毎月2回程度の職員研修会を開催している。研修の内容は、職員の意見に基づき、実践的な内容となっている。 |
| 13 | 同業者との交流を通じた向上 | 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | B | コロナ感染予防対策の為、職員懇親行事や合同レクリエーション活動は中止している。 | | |
| 14 | 本人と共に過ごし支えあう関係 | 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | B | 職員は利用者を人生の先輩として尊重し、様々なことを学びながら日々の暮らし・食事・レクリエーション等を共に楽しむよう心がけている。 | | |
| 15 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 | 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | B | コロナ感染予防対策の為、地域のイベントは中止・外出や面会も禁止だったため、思うように実行出来ていません。但し、今後は徐々に実行できるよう情勢を考慮しながら、実行していく。 | | |

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンターだいどう

作成者: 永井 康正

作成日: 2024年 1月 29日 運営推進会議における評価実施日: 2024年 1月 29日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

| No. | タイトル | 評価項目 | 事業所 自己評価 | 記述 | 運営推進会 議 における 外部評価 | 記述 |
|------------------------------|----------------------|--|-------------|---|----------------------------|---|
| II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 16 | 思いや意向の把握 | 一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。 | A | 本人が意思疎通困難な場合は、ご家族に意向や過去の生活歴等を伺い、本人本位の生活が送れるように支援している。 | | |
| 17 | チームでつくる介護計画とモニタリング | 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | B | 個別の毎日チェック表を実施。カンファレンスや毎日の申し送り時に気になったことの報告・話し合い実施。また、定期的なフロア会議でケアの統一化に努めている。外部の医療機関とも連携をとり相談をしている。 | B | 個々の状況に応じた介護計画を作成し、その外に実施される運営推進会議にて報告している。継続しております。 |
| 18 | 個別の記録と実践への反映 | 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | A | 毎日のケアプランのチェック表を作成し一か月ごとに評価している。チェック表はその日の出勤者が行うので、ケアプランの確認ができ、特記の欄には今ではなかった事などを記入してしてもらい、情報共有をしている。 | B | 日々の様子からの気づきと職員間で共有し、実践の改善が目標としている。 |
| 19 | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 | 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | B | 本人やご家族の状況を把握し、出来るかぎり柔軟な対応を出来るよう、努めている。 | | |
| 20 | 地域資源との協働 | 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | B | 残存能力やニーズをしっかり把握し、多様なサービスを組み合わせながら支援できるように努めている。 | | |
| 21 | かかりつけ医の受診支援 | 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | B | 適切な医療が受けられるよう、本人やご家族へのアドバイスを行い、状態によっては受診の付き添い等もやっている。 | | |
| 22 | 入退院時の医療機関との協働 | 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | A | 医療機関と連絡を密にとり、情報交換を行い状況確認・面談に同等の対応を行っている。 | B | 入退院時の連絡と密にとり退院後の対応が充実している取組が、運営推進会議の報告が、継続しております。 |

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンターだいどう

作成者: 永井 康正

作成日: 2024年 1月 29日

運営推進会議における評価実施日: 2024年 1月 29日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

| No. | タイトル | 評価項目 | 事業所 自己評価 | 記述 | 運営推進会議 における 外部評価 | 記述 |
|-----|---------------------|--|-------------|--|------------------------|---|
| 23 | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 | 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | A | 段階的にご家族に報告・意向の確認をし、本人にとって一番よい環境へ以降できるように努めている。グループホームで出来ること・出来ない事を医療機関と共に説明しチームで支援できるように取り組んでいる。 | B | 家族の連絡は本人と本人の最終の環境を事前に決めて取り組んでいくことと決まっています。 |
| 24 | 急変や事故発生時の備え | 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | B | 急変時のマニュアル作成し、いつでも閲覧できるように努めている。その他の初期対応については定期勉強会実施。急変時が行った後は振り返りを行いスタッフで情報共有している。 | | |
| 25 | 災害対策 | 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | B | 運営推進会議で有事の際における協力を呼びかけており、火災報知器等の設備面や非常時の対応について、利用者参加型の訓練を実施している。 | A | 運営推進会議で災害時の対策について話し合い、水害時の避難場所や地域の助け合いについて協議し報告しています。 |

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンターだいどう

作成者: 永井 康正

作成日: 2024年 1月 29日 運営推進会議における評価実施日: 2024年 1月 29日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

| No. | タイトル | 評価項目 | 事業所 自己評価 | 記述 | 運営推進会議 における 外部評価 | 記述 |
|--------------------------|--------------------|--|-------------|--|------------------------|------------------------------------|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 26 | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 | 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | A | 認知症の進行の度合いや理解度に個人差があるが、各人の状態に応じた対応を行い、人格や自尊心を尊重出来るよう努めている。 | B | 個人の状態や認知症の個人差を考慮して対応している旨が報告されている。 |
| 27 | 日々のその人らしい暮らし | 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | A | ある程度一日の流れは決まっているが、行事や本人の体調・希望に応じて柔軟に変更するよう努めている。 | | |
| 28 | 食事を楽しむことのできる支援 | 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | B | 各人の能力や得意・不得意に応じて可能な家事は手伝って頂いています。 | B | 食事は本人の好みに合わせて提供している旨が報告されている。 |
| 29 | 栄養摂取や水分確保の支援 | 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | A | 各人の摂取状態等を見極め、形態の変更を工夫し分量の調整を行い、快適に飲食ができるように支援している。 | | |
| 30 | 口腔内の清潔保持 | 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | A | 食後の口腔ケアを行い、希望者には訪問歯科の診療を導入している。 | A | 口腔ケアの重要性を職員に伝え、報告されている旨が報告されている。 |
| 31 | 排泄の自立支援 | 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる | B | 尿意・便意のサインを逃さないことや場所が分からない方への誘導を行っている。 | B | 個人の状態や認知症の個人差を考慮して対応している旨が報告されている。 |
| 32 | 入浴を楽しむことができる支援 | 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそって支援をしている | B | 個浴で対応し、体調や気分が優れない等に応じて調整や代替えを行っている。 | | |
| 33 | 安眠や休息の支援 | 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | B | 各人の睡眠の状態や体調に合わせ、室温調整その他を行い、快適に休息できるよう支援している。 | | |

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンターだいどう

作成者: 永井 康正

作成日: 2024年 1月 29日 運営推進会議における評価実施日: 2024年 1月 29日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

| No. | タイトル | 評価項目 | 事業所 自己評価 | 記述 | 運営推進会議 における 外部評価 | 記述 |
|-----|---------------|--|-------------|---|------------------------|--|
| 34 | 服薬支援 | 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | A | 何のために服薬をしているのかをしっかりと理解し、適切な支援が行えるよう努めている。 | A | 7,8月の運営推進会議の報告資料 趣意が十分に反映されている と評価。継続して実施中。 |
| 35 | 役割、楽しみごとの支援 | 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | A | 生活歴や嗜好を考慮し、各自が役割や楽しみをもってホームでの時間を過ごせるよう支援している。 | | |
| 36 | 日常的な外出支援 | 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | C | コロナ禍の為、外出が出来ていなかったが、情勢を考慮しながら、簡単な散歩や日向ぼっこはしている。 | | |
| 37 | お金の所持や使うことの支援 | 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | A | 金銭は概ねホーム側で管理しているが、必要に応じて買い物等の支援を行っている。 | | |
| 38 | 電話や手紙の支援 | 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している | B | 携帯電話を持参され自由に電話できる方と施設の電話で家族様とお話している。 | | |
| 39 | 居心地のよい共用空間づくり | 建物内部は一人ひとりの身体機能がわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている | B | 季節感を感じてもらう為、壁紙は季節の物を利用者と一緒に作成している。写真や作品を掲示を行っている。 | A | 運営推進会議の共用空間の一部 利用者の意見が活かされている 居心地のよい場に維持している |

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンターだいどう

作成者: 永井 康正

作成日: 2024年 1月 29日

運営推進会議における評価実施日: 2024年 1月 29日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

| No. | タイトル | 評価項目 | 事業所 自己評価 | 記述 | 運営推進会議 における 外部評価 | 記述 |
|-------------------------------------|-----------|--|-------------|---|------------------------|--|
| IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目) | | | | | | |
| 40 | 本人主体の暮らし | 本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています | B | ご本人の意向やお気持ちを聞き、それにそった暮らしを支援しています。 | | |
| 41 | | 本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています | B | 家族様やご本人、担当ケアマネジャーから生活歴や嗜好をお聞きし、ホームでの時間を過ごせるよう支援しています。 | | |
| 42 | | 本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています | A | 医療機関と連絡を密にとり、情報交換を行い状況確認をしてから、訪問診療に臨んでいます。 | B | 個人利用者・健康状態・生活全体の見守り・医療機関との連携・ケア・支援・福祉・相談・支援等 |
| 43 | 生活の継続性 | 本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています | B | 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています | | |
| 44 | | 本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています | B | あらかじめ使い慣れた家具等を持参して頂けるようご家族に説明しご用意してもらうことを促しています。 | B | 自身の生活歴・慣れ・嗜好・こだわり |
| 45 | | 本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています | C | 希望を聞いて、都度対応はしている。コロナの情勢で催事の参加は少なくなっていたので、徐々に参加できるようにしていく。 | | |
| 46 | 本人が持つ力の活用 | 本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみことを行うことができています | A | 認知症の進行の度合いや理解度に個人差があるが、各人の状態に応じた対応を行い、人格や自尊心を尊重出来るよう努めている。 | | |
| 47 | | 本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています | A | 職員との信頼関係の構築を前提とし、日々の何気ない会話を心がけている。 | A | 介護職員・利用者・家族・地域との関係構築・利用者の関与・生活の充実 |

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンターだいどう

作成者: 永井 康正

作成日: 2024年 1月 29日

運営推進会議における評価実施日: 2024年 1月 29日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

| No. | タイトル | 評価項目 | 事業所 自己評価 | 記述 | 運営推進会議 における 外部評価 | 記述 |
|-----|------|---|-------------|---|------------------------|---|
| 48 | | 本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている | C | 一人ひとりのその日の希望にそって、簡単な散歩に出かけられるよう支援に努めている。情勢を踏まえ、徐々に家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | | |
| 49 | 総合 | 本人は、このGHIにいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている | B | 日常の中で思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけ、その人がその人らしく、安心して生活できるように支援することに努めている。 | B | 運営推進会議の「暮らしのなかの心」を生活する現在の状況の能力・発展と期待です。 |

総評

利用者の一人ひとりの状況や思いを汲み取り家族の連絡と密に連携し努力している。職員間の連絡・連携の意識を研修やミーティングと行い支援者の対応向上にも積極的に取り組んでいる。地域との連携の意識を高め、本人への支援の強化や地域との連携の強化を図るべき。

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

最終段階における評価は難しと感じ、年度当初に評価項目の確認を行い、その結果を運営推進会議で報告・検討等を行うこと。個別対応が全てのスタッフに同じ水準で行われる様、認知症の進行の度合いなど、情報周知を徹底する。医療と連携をとり、その情報をもとに日々の生活支援に活かす。家族様にも連絡報告、運営推進会議でも普段の取り組みや活用できる情報を交換して地域での支援も取り組める様、より良い生活支援を目指す。

目まぐるしく日々の体調や認知症の進行の度合いなど、情報周知を徹底する。医療と連携をとり、その情報をもとに日々の生活支援に活かす。家族様にも連絡報告、運営推進会議でも普段の取り組みや活用できる情報を交換して地域での支援も取り組める様、より良い生活支援を目指す。

参加者サイン欄

上島 克己 (東淀川区地域包括支援センター)